



# 客船「ばしふいっく びいなす」が 白老港に初寄港 （苫小牧港・白老港の連携活用）

白老町  
国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

## 2020年の「民族共生象徴空間」開設を追い風に

2017年5月11日、白老港に客船「ばしふいっく びいなす」が初寄港しました。神戸港を出発し日本を一周するクルーズの途中で横浜港を經由して寄港したものです。当日はあいにくの小雨模様でしたが、上空から10機のモーターパラグライダーが出迎え、歓迎セレモニーではアイヌ文化の伝統楽器「ムックリ」の演奏を披露しました。

352名の乗客は、アイヌ民族博物館など白老町内を周遊するバスツアーに参加したほか、JRやタクシーを利用して苫小牧などの周辺観光を楽しみました。岸壁ではアイヌ伝統工芸品販売、白老牛のサイコロステーキやカニ汁などが振舞われ、北海道の旅を満喫していました。

出港セレモニーでは、北海道屈指のよさこいソーランチーム「平岸天神」が踊りを披露したほか、アイヌ儀式による「航海安全の祈り」が行われ、町民約300人が出港を見送りました。

乗客からは「アイヌ文化に触れることができ良かった」、「白老牛を初めて食べたが美味しかった」などの好意的な感想をいただいたほか、支笏湖やイコロの森、ノーザンホースパークといった苫小牧方面への観光ツアーも人気を集めました。

一方で、港の近くに買い物ができる場所がないことなどに不満の声も聞かれましたが、今回は白老港への初寄港であり、これまでと違った寄港地だったため、目新しさや新鮮さも好評の一因であると考えています。



白老港に入港する「ばしふいっく びいなす」



好評だった白老牛のサイコロステーキ



アイヌ民族博物館でアイヌ文様刺繍（ししゅう）を体験

2020年に「国立アイヌ民族博物館」や「国立民族共生公園」を拠点とした「民族共生象徴空間」が開設されるため、国内外からの注目の高まりを期待しています。今回の経験を活かし、陸路、鉄路からの受入れに加え、旅客船受入れのための取組の一層の推進が大切であると感じています。

### 苫小牧・白老両港が連携してクルーズ船誘致活動を展開

今回の「ばしふいっく びいなす」の白老港寄港は、国土交通省北海道開発局、苫小牧港管理組合及び白老町による「苫小牧港・白老港の連携活用方策検討勉強会」における取組の結果、実現したものです。

この勉強会は、苫小牧港と白老港が近距離に位置する立地条件と各港の特徴を活かした、「物流」、「観光・

交流」、「防災」の3分野における連携方策を検討し、両港のさらなる利便性向上と利活用を図ることを目的に、平成28年度に立ち上げられました。10月に第1回目の勉強会を開催し、「観光・交流」分野の取組としてクルーズ船誘致を目指すこととしました。これを受け、苫小牧港管理組合と白老町によるクルーズ船社への誘致活動が展開されました。

寄港当日は、停泊中の船内で白老町のみならず苫小牧市の関係者による観光等のPR活動が行われました。本年10月13日には苫小牧港に「ばしふいっく びいなす」が入港予定であり、その際には白老のPR活動を行うこととしています。

今後は、引き続き「観光・交流」分野の取組の充実を図るとともに、「物流」や「防災」分野の検討を進めていきたいと考えています。

### 苫小牧港・白老港の更なる連携を

北海道新幹線の開通や、LCCの就航に加え、北海道においてもクルーズ船誘致の強化によるインバウンドの増加など、今後ますます、「北海道観光」がクローズアップされていくことが予想されます。引き続き苫小牧港と白老港が連携して地域の観光振興に取り組んでいきます。

終わりに、このたびの「ばしふいっく びいなす」の寄港に際して、誘致にご尽力いただいた関係者の皆様にお礼申し上げます。



多くの町民が見送った出港セレモニー